

穂別町立博物館報

第 6 号

(昭和63年度)

穂 別 町 立 博 物 館

目 次

展 示 活 動	1
資 料 収 集 保 存 活 動	3
調 查 研 究 活 動	4
普 及 教 育 活 動	5
運 營	7

● 展示活動

I 特別展

■ 第5回特別展『穂別のカメ化石』

「ユーモラスな形でペットとしても人気のあるカメ。カメは中生代に栄えた大型爬虫類の生き残りです。穂別町では他の地域には滅多に発見されない、白亜紀末期のカメ化石が多数産出します。

穂別町立博物館では第5回特別展として、『穂別町のカメ化石』を企画しました。新聞のトップ記事にもなった白船の沢産カメ化石をはじめ、未公開のカメ化石を展示します。」（特別展ポスターより）

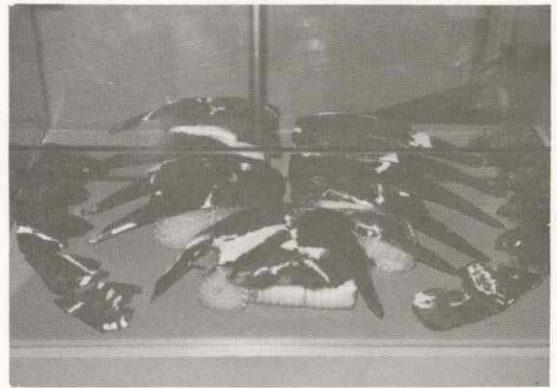
- 期 間：昭和63年8月23日～9月4日
- 入場者数：142名（観覧者名簿に記載した者）
- 展示内容：

カメ化石（実物：5件）

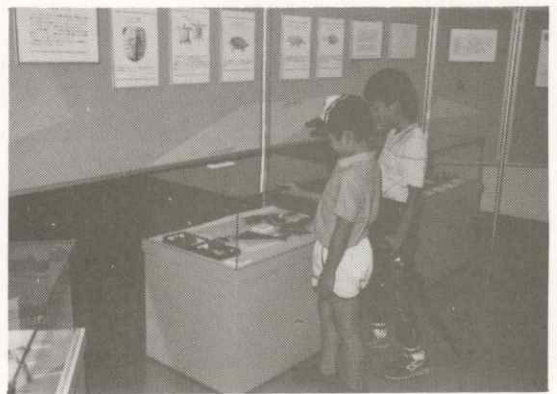
1. 稲里標本（HMG-5）
2. 穂別第1標本（HMG-7）
3. 富内第3標本（HMG-8）
4. 平丘第2標本（85-45：受入番号）
5. 平丘第3標本（87-20：受入番号）

パネル展示（文章及び図による説明：17件）

1. 穂別町立博物館収蔵カメ化石リスト
2. カメの系統図
3. 化石カメ（概説）
4. 「エウノトサウルス」の骨格（復元図）
5. 最古のカメ「プロガノケリス」（復元図）
6. 「トリアソケリス」（復元図）
7. 白亜紀のカメ「アーケロン」（復元図）
8. 「プロステガ」の骨格（復元図）
9. 「現生カメ」（概説）
10. 「アカウミガメ」（現生種）
11. 「カメの肢骨」（骨格図）
12. 「カメの甲羅の骨と鱗板」
13. 「稲里標本の産出状態」
14. 「平山・鈴木論文」
15. 「カメ分類図」
16. 「北海道新聞（88-1-29）」
17. 「北海道新聞（88-2-5）」



「穂別のカメ化石」



「穂別のカメ化石」



「穂別のカメ化石」

Ⅱ 第3展示室

- 昭和63年5月3日 工事開始
- 昭和63年7月17日 公開
- 展示面積 32.40㎡

昭和59年に第2展示室を増設しているが、収蔵資料増加のため、第2展示室横に第3展示室を増設した。

第2、3展示室にはいずれも人文系資料を展示し、入場無料である。

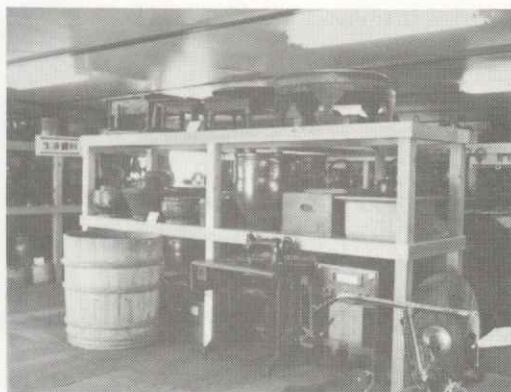
第3展示室の増設に伴い、展示物を移動したため収蔵・展示品点数は下記のようになった。

	生活	産業	その他	計
常設展	120	308	194	622
第二展	270	510	2	782
第三展	92	32	3	127
収蔵庫	287	459	1,194	1,940
計	769	1,309	1,393	3,471

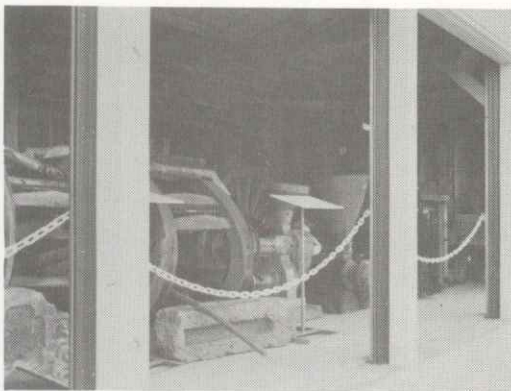
(1989. 3. 31.現在：自然・自然史系資料は除く)



「保存庫・第三展示室外観」



「保存庫・第三展示室収蔵展示物」



「保存庫・第二展示室収蔵展示物」

● 資料収集保存活動

昭和63年4月1日から平成元年3月31日までに
寄贈、採集、寄託された資料を順に記した。

(敬称略)

I 寄 贈

【人文系資料】 9件 209点
UFO写真パネル (47点) 根本 義雄
大正琴 (1点) 森 キヨ
産業、生活資料 (74点) 煤孫 英雄
穂別町、水道の歴史資料 (41点) 田中 武治
電気あんか (1点) 窪田マサヨ
写真用具 (3点) 三宅 俊一
農業、林業、生活資料 (33点) 吉田 政行
杵打ち金槌 (1点) 吉田 環
柱時計ほか (8点) 河合 昭

【自然系資料】 6件 6点
野鳥(ヒレンジャク) (1点) 笠巻袈裟男
野鳥(トビ) (1点) 三宅 俊一
野鳥(未詳) (1点) 岩田トヨ子
動物(イイズナ) (1点) 小石川進一
野鳥(ハイタカ) (1点) 荒木新太郎
野鳥(キレンジャク) (1点) 小林 瞳

【自然史系資料】 9件
アンモナイト化石 (2点) 中條 太光
脊椎動物化石ノジュール (4点) 服部 義幸
化石入りノジュール (8点) 千歳化石会
化石入りノジュール (22点) 笠巻袈裟男
化石入りノジュール (8点) 穂博協力会
化石入りノジュール (多数) 高橋 博志
化石入りノジュール (多数) 藤田 欣享
アンモナイト化石ほか (4点) 松本 達郎
樹幹化石、オーム貝化石 (2点) 吉田 政行

II 採 集

【自然史系資料】

4月17日 字富内 白亜紀イノセラムス化石
6月1日 字長和 白亜紀アンモナイト化石

【人文系資料】

6月10日 字長和 漆器(長和旧駅通)

III 寄 託

【自然史系資料】

脊椎動物化石ノジュール (多数) 服部 義幸
アンモナイト (1点) 阿部 利春

IV そ の 他

鈴木謙三記念医科学応用財団よりクビナガリュウ(ホベツアラキリュウ)レプリカおよび化石骨展示ケースが寄贈された。関連事項については、「●普及教育活動 IIIぎふ中部未来博覧会(未来博88)」を参照されたい。

● 調査研究活動

I 穂別町内地質調査

博物館職員数減の為、学芸員が事務処理・施設管理維持を行っている状況で、地質調査は全く行えなかった。

II 脊椎動物化石の研究

【デスモスチルス】

木村方一、北海道教育大学助教授に研究委託。
公表論文：穂別町立博物館研究報告[1]、11-23。
穂別町立博物館研究報告[2]、51-62。
投稿準備中

【クジラ】

木村方一、北海道教育大学教授に研究委託。
投稿準備中

【ウミガメ】

平山 廉、京都大学大学院院生に研究委託。
公表論文：穂別町立博物館研究報告[1]、17-30。
投稿準備中
地徳 力、学芸員が別資料で研究開始。
投稿準備中

【長頸竜】

仲谷英夫、香川大学助手に研究委託。
公表論文：穂別町立博物館研究報告[1]、37-40。
穂別町立博物館研究報告[2]、43-49。
穂別町立博物館研究報告[5]、43-48。
投稿中

【モササウルス】

鈴木 茂、穂別町立博物館前学芸員が研究継続
公表論文：穂別町立博物館研究報告[2]、31-42。
地団研専報[30]、45-66。
地徳 力、学芸員が別資料で研究開始
日本地質学会第94年学術大会（大阪）
で一部発表。

【サメ】

久家直之、京都大学大学院院生に研究委託
公表論文：穂別町立博物館研究報告[1]、33-36。
投稿準備中

III 刊 行 物

【穂別町立博物館館報】

第5号、14頁 昭和63年7月1日発行

【穂別町立博物館研究報告】

第5号、48頁 平成元年3月30日発行

■著者及び論文題名

MATSUMOTO, T: A Gigantic ammonite
from Hobetsu, Hokkaido. (北海道穂別産の巨大アンモナイト)。
1-11, pls. 1, 2.

松本達郎・野田雅之・利光誠一：穂別町立博物館の巨大アンモナイト。13-25, pls. 1, 2.

谷本正浩・大倉正敏：富山県朝日町大平川から発見されたプレシオサウルス上科の歯の化石。27-32, pls. 1.

地徳 力：穂別町立博物館の資料登録について。33-42。

仲谷英夫：穂別町より産出した長頸竜(HMG-1)の『和名』について。43-48。

【穂別町立博物館収蔵目録】

II 人文系資料分類目録、114頁

平成元年3月31日発行

● 普及教育活動

専任の館長が10月6日に着任したが、嘱託職員が未補充であり、館独自の事業は他の活動も含めてほとんど行えない状況であった。

I 博物館講座

【自然観察会】

実行事業なし

【化石クリーニング教室】

5月から10月までの第1・3日曜日に開講（8、9月都合により休講）。要望があれば随時開講している。恒例化したため参加人数は記録していない。

II ホッピーだより（博物館広報）

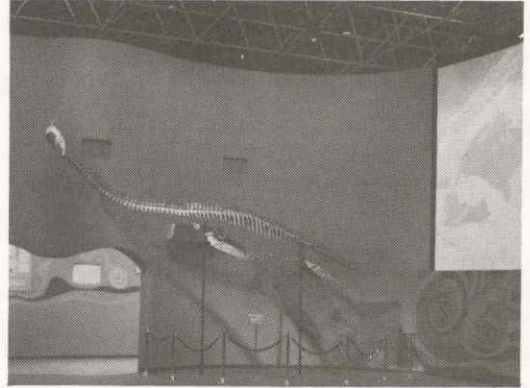
【主な内容】

- | | |
|--|--------|
| 51号 昭和62年度博物館収集資料について | 63年4月 |
| 52号 博物館近況 | 63年5月 |
| 53号 君にも化石がとれる＝その1＝
基礎編 | 63年6月 |
| 54号 君にも化石がとれる＝その2＝
きれいな化石をとるには編 | 63年7月 |
| 55号 君にも化石がとれる＝その3＝
化石クリーニング編 | 63年8月 |
| 56号 君にも化石がとれる＝その4＝
化石のそっくりさんを作ってみよう | 63年9月 |
| 57号 君にも化石がとれる＝その5＝
どこが化石？どれが化石？ | 63年10月 |
| 58号 君にも化石がとれる＝その6＝
化石の声をきく?!? | 63年11月 |
| 59号 君にも化石がとれる＝その7＝
化石の声をきく?!? | 63年12月 |
| 60号 『へび・へび・蛇』 | 63年1月 |
| 61号 君にも化石がとれる＝その8＝
恐竜を作ろう!? | 1年2月 |
| 62号 君にも化石がとれる＝その9＝
化石を作ろう!? | 1年3月 |

III ぎふ中部未来博覧会（未来博88）

「ぎふ中部未来博覧会（会期：昭和63年7月8日～9月18日）」において鈴木謙三記念医科学応用研究財団が「健康地球館」を開館した。

穂別町立博物館では、これに協力しホベツアラキリュウ（雌型）の貸出しやアンモナイト複製の援助のほか、展示指導などを行った。



「健康地球館内（ぎふ中部未来博覧会）」

IV その他

【穂別町教職員館内視察】

昭和63年4月7日：穂別町新任教職員（4名）が研修で来館

【日本応用地質学会北海道支部巡検】

昭和63年6月11日：日本応用地質学会北海道支部（25名）が研修に来館

【苫小牧ボーイスカウト・体験学習】

昭和63年7月31日：苫小牧ボーイスカウト（28名）が化石採集の体験学習に来館

【自然体験王国北海道（穂別コース）】

昭和63年8月4～10日：自然体験王国北海道（穂別コース）の化石採集、クリーニングを指導

【穂別町教育研究会社会科サークル】

昭和63年8月30日：穂別町教育研究会社会科サークル（4名）が研修のため来館

【穂別町教育研究会理科サークル】

昭和63年8月30日：穂別町教育研究会理科サークル（7名）が研修のため来館

【鶴川町教育研究会社会科サークル】

昭和63年9月29日：鶴川町教育研究会社会科サークル（4名）が研修のため来館

【町内学校の利用】

4月14日：穂別中学校特殊学級生徒（2名）

6月2日：仁和小学校3、4学年（15名）

7月21日：仁和中学校（39名）

7月5日：穂別小学校1学年（37名）

3月17日：穂別小学校3学年（44名）

【町外学校の利用】

4月3日：登別市鷺別小学校（9名）

5月17日：標茶町磯分内中学校（21名）

5月17日：標茶町虹別中学校（17名）

5月20日：静内町静内小学校（84名）

5月26日：標茶町立阿歴内中学校（18名）

6月23日：札幌市立豊園小学校（85名）

7月1日：札幌市立大通小学校（64名）

7月7日：札幌市立西岡北小学校（120名）

7月14日：新冠町立東川小学校（42名）

7月21日：厚真町立軽舞小学校（38名）

7月21日：由仁町立三川中学校（57名）

7月18日：鶴川町立生田小学校（20名）

8月26日：札幌市立福井野小学校（134名）

9月29日：美唄市立美唄中学校（181名）

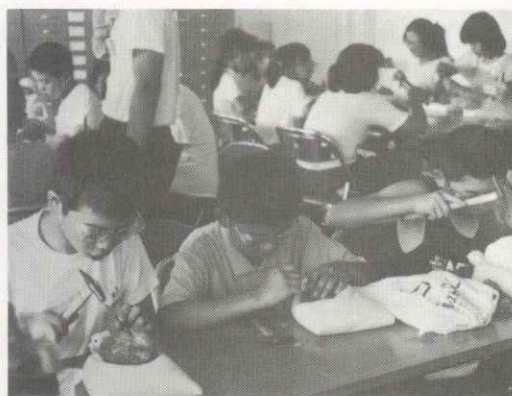
10月7日：苫小牧市立泉野小学校（146名）

10月23日：苫小牧高文連郷土研究部（15名）

11月18日：道教育大岩見沢分校地学（19名）



「化石採集（自然体験王国北海道）」



「化石クリーニング（自然体験王国北海道）」

● 運 営

I おもなできごと

【昭和63年度】

- 4月9日 木村方一氏（道教育大学教授）来館
4月16日 「ぎふ中部未来博」展示のため、クビナガリュウ・レプリカおよび雌型貸出
4月19～22日 「ぎふ中部未来博」展示準備のため、アンモナイト・レプリカ作成
4月26～28日 学芸員、岐阜市へ出張（展示指導）
5月3日 博物館保存庫（第3展示室）工事開始
5月18日 博物館P.R.用ポスターパンフレット配布開始
5月25日 岩館指導主事（胆振教育局）来館
5月27日 渡辺 仁氏（早稲田大学教授）来館
5月27日 博物館協会総会開催
5月31日 クビナガリュウ化石骨ほか「食の祭典」に貸出
6月2日 平取町教育委員会（4名）視察
6月4日 穂別町新任教職員（15名）研修・視察
6月11日 日本応用地質学会北海道支部（25名）巡検
6月12日 山内 暁氏（NHK室蘭放送局）視察
6月18日 クビナガリュウ雌型返却（ぎふ中部未来博）
6月23日 平山 廉氏（京都大学）より、カメ化石返却
6月26～28日 学芸員、岐阜市へ出張（展示指導）
6月30日 足寄町教育委員会（4名）視察
7月7日 東川町議会議員（16名）視察
7月15日 加瀬友喜氏（国立科学博物館）来館
7月15日 胆振支庁農務課長視察
7月17日 煤孫家資料搬入
7月19日 加瀬友喜氏（国立科学博物館）来館
7月21日 赤松守雄氏（道開拓記念館）来館
7月24日 松本達郎氏（九州大学名誉教授）来館
7月30日 クビナガリュウ化石骨搬出（ぎふ中部未来博へ）
7月31日 「ほべつ流送まつり」（博物館広場）
8月1～3日 学芸員、岐阜市へ出張（展示指導）
8月10日 沼田町化石展示学習基本構想策定委員（14名）視察
8月12日 新十津川町社会教育委員（10名）視察
8月23日 栗沢町社会教育委員（12名）視察
8月23日 小平町教育委員会（3名）来館
8月23～9月4日 第5回特別展「穂別のカメ化石」開催
8月24日 岩見沢市郷土資料館基本構想検討会議（9名）視察
8月25日 胆振支庁経済部長ほか（3名）視察
9月3日 沼田町文化財保護委員（7名）視察
9月6日 泉征三郎氏（北海道林業試験場）視察
9月22～28日 学芸員小平町出張（クビナガリュウ発掘指導）
9月27日 クビナガリュウレプリカおよび化石骨返却（ぎふ中部未来博）
9月29日 鶴川町教育研究会（4名）視察
10月6日 今 幸太郎館長（専任）着任
10月14日 L.サローム氏（カナダ・アルバータ州広報局渉外部長）ほか（3名）視察
10月16日 苫小牧市博物館「化石観察会」（50名）学芸員指導
10月18日 胆振管内助役会議（18名）視察
10月23日 門崎允昭氏（道開拓記念館）来館
10月25～11月3日 収蔵資料点検
10月28日 札幌法務局苫小牧支局長視察
11月5日 占冠村商工会（8名）視察
11月15～20日 収蔵資料点検
11月16日 魚住 悟氏（北海道大学教授・中川町資料館名誉館長）ほか（4名）来館
11月26日 博物館案内看板（夕張市、紅葉山）倒壊、撤去
12月8日 小平町町長ほか（4名）来館
12月31日～1月6日 年末年始休館
2月5日 横路由美子知事夫人視察
山口恵聖氏（道議会議員）随行
2月24日 臨時休館（大葬の礼）
2月28日 稚内市教育委員会（2名）視察
3月7日 胆振教育局主事（3名）視察
3月8日 札幌開発建設部専門官（5名）視察
3月11日 木村方一氏（道教育大教授）博物館運営指導に来館
3月16日 博物館協議会開催
3月17日 R.リー氏（ワシントン大学教授）視察

Ⅱ 組 織



昭和62年1月1日以来、教育長兼任であった館長職に、元教育長の今幸太郎が、昭和63年10月6日に嘱託職員として着任した。

昭和62年3月31日に、都田 哲学芸補助員（嘱託）が退職して以来、学芸補助員職は臨時職員で対応している。

職員名簿（平成元年3月31日現在）

館長 今 幸太郎（嘱託）
学芸員 地徳 力

博物館協議会委員（平成元年3月31日現在）

会長 久保田瑞真
副会長 荒木新太郎
委員 佐藤 嗣夫
委員 武田 武夫
委員 中村 忠良
委員 村上 隆
委員 小石川武美

（平成2年7月31日まで）

Ⅲ 利用状況

【昭和63年～平成元年度入館者数】

月	一 般	学 生	計	開館日
4	322	123	445	24
5	1,268	623	1,891	22
6	410	144	554	25
7	855	966	1,821	27
8	1,224	917	2,141	25
9	484	287	771	23
10	458	316	774	24
11	187	56	243	23
12	61	8	69	25
1	90	47	137	19
2	100	32	132	21
3	184	111	295	25
計	5,643	3,630	9,273	283

Ⅳ 昭和63年度予算

費 目	予 算 (単位千円)
報 酬	36
共 済 費	115
賃 金	2,799
報 償 費	451
旅 費	194
需 用 費	5,398
	消耗品費 417
	燃 料 費 1,000
	食 糧 費 81
	印刷製本費 975
	光 熱 水 費 2,299
	修 繕 費 626
役 務 費	445
	通信運搬費 309
	手 数 料 70
	保 險 料 66
委 託 料	1,244
使用料及び賃借料	528
工事請負費	2,200
原 材 料 費	72
備品購入費	628
負担金補助及び交付金	145
博物館費合計	14,255

Ⅴ 利用案内

【開館時間】 午前9時30分～午後4時30分

【休館日】 月曜日・祝日の翌日・毎月月末
 年末年始(12月30日～1月6日)

【観覧料】

	一 般	小中学校・高校生
個 人	200 円	50 円
団体(10人以上)	150 円	30 円

【減 免】

- 1) 穂別町立小学校及び中学校が教育計画のため入館する場合
- 2) 国・地方公共団体及び学術研究機関の職員が調査・研究のため入館する場合
- 3) 老人福祉法(昭和38年法律第133号)第14条に規定する町内の老人福祉施設が収容者の養護計画のため入館する場合
- 4) 精神薄弱者福祉法(昭和35年法律第144号)第18条に規定する町内の精神薄弱者福祉施設が収容者の養護計画の実施のため入館する場合
- 5) 前各号に定めるもののほか、公益上または教育振興上特に教育長が必要と認める場合

穂別町立博物館報第6号

(昭和63年度)

発行 1989年7月31日

発行者 穂別町立博物館

〒054-02

北海道勇払郡穂別町字穂別80番地の6

TEL (01454) 5-3141

印刷 さんようプリント

苫小牧市柏木町1丁目16-9

